

# 図書館だより

## 文化学園図書館

文化学園大学・文化ファッション大学院大学  
文化服装学院・文化外国語専門学校

No.160

2015年6月20日発行  
東京都渋谷区代々木3-22-1  
TEL.03-3299-2395  
FAX.03-3299-2604

## ファッションビジネスと情報管理

文化ファッション大学院大学 ファッションマネジメント専攻長 教授 山村 貴敬

1980年代の終わり頃、繊維ビジョン「生活文化提案型産業への新たな展開」(1988年)に基づいて、「繊維リソースセンター構想」が通商産業省(現・経済産業省)から提唱された。この繊維リソースセンターは、繊維産業の実需対応型供給体制を構築するべく、商品企画力・情報収集発信機能の強化と繊維産業各部門の相互交流の促進を目的としていた。

繊維リソースセンターは、リソースという言葉に象徴されるように、企画や経営の資源となる情報を収集、整理、分析、加工、提供する機能が中核となっていた。情報内容を創造・提案するファッション産業に必要なリソース=情報に、当時の通商産業省が着目したわけである。

もとよりファッションビジネスでは、ファッション情報の収集から提供までの一連の情報管理の果たす役割は大きい。自身が卒論のために取材したレナウンの情報室は、1970年代初め頃に商品企画のための情報管理機能を有していた。

1970年頃、それから20年経過した1990年頃、いずれの時代もまだインターネットは普及していなかった。情報機能が重要視されるファッションビジネスでも、ネットによる情報検索などは考えられず、企画や経営のスタッフが情報室・資料室や、資料が揃ってい

る場に出向いて必要な情報を収集していた。しかし現在はインターネットという、何かを調べる際に大変役立つものがあるが、一方でその情報量は膨大である。ファッションビジネスでもネット情報とリアル情報を使い分けながら、収集・整理・分析を行う必要が生じてくる。

ところでビジネス現場では、O2O(Online to Offline)が目され、ショールーミングに加えてウェブルーミングという言葉もよく耳にする。ならば企業もリアル情報とネット情報の両方を時々に応じて検索するなどの情報管理は考えられないだろうか。

最近のファッション業界では、業績低迷による経費削減とインターネットの普及により、資料室・情報室が整備されている企業が減少している。しかしネットでは手に入らない希少な資料、実務現場から入手できる生の情報、スワッチ・コスチューム等のネットでは再現性のよくない情報等々の情報は貴重なリソースである。

リアルとネット、両者の情報を統合したドキュメンテーション機能に情報利用者のニーズに応えるリサーチ機能が備わった、ファッション情報管理を検討してみるのも現代のファッションビジネスで一考の価値がありそうである。

## ココとヨーコと邂逅と

文化服装学院講師(ファッションデザイン画担当) 金谷 容子

私の人生を導いてくれた思い出の一冊は、昭和47(1972)年発行の『モンシエリCoCo』(大和<sup>やまと</sup>和紀<sup>わき</sup>著、講談社)という少女コミックです。

お話の舞台は恋とおしゃれが咲きほこる花の都パリ。つぎはぎだらけの斬新な手作り衣裳を身にまとったココという名の17歳の少女が、ふとしたきっかけで大御所デザイナーが発表するコレクションのステージに登場。この行動が彼女の人生を大きく飛躍させることに! 変わり映えのしない、ややネタ切れ状態のモード界に一大旋風を巻き起こし衝撃デビューを飾ることになります。ファッションセンス抜群のココは、いつしか「モンシエリ(恋人)ココ」と呼ばれ一躍人気者になりますが、手ごわいライバルの出現やファッション業界の策略、数々の妨害にもくじけることなく、優しい仲間を支えられて一流デザイナーへと成長するサクセスストーリーです。

当時の私は11歳。新潟県妙高高原で暮らす小学生でした。主なファッション情報といえば観光客のスキーウエアと地元ノルディックジャンプ複合選手が着用するカラフルな練習着でした。エレガントな美意識とは遠く離れた環境にいたためパリの薫り漂う魅力満載の本書は特別な想いを寄せて繰り返し読みつけたものです。

時折ページの隅に小さくココのチャームショップというデザインメモが添えられていて、カスケットの小粋なかぶり方や手作りアクセサリーのアイデア、かわいらしいフェルト製マスコット、ホットパンツやパンタロンの着こなし術が紹介されていました。トンボめがねや厚底サンダル、白いギター

のイラストは70年代アイドルと重なり、ページからあふれ出るそのすべてを好奇心いっぱいを受けとめて一生懸命に追いかけてきました。

手作りファッションに目覚めた私を両親は後押ししてくれて父親は服地に直接花もようをたくさん描き、母親はその図案どおりに刺繍を施しワンピースを仕立ててくれました。ふたりの合作に袖を通した私の気分はもはやシャゼリゼ通りをスキップするココでした。

それから数年後、熱い思いを胸に文化服装学院へ入学。待望のファッション中心の生活がスタートしました。手縫いの運針は芸術的に針目が踊り、猛スピードのロックミシンの音はキスの曲「デトロイト・ロック・シティ」に聴こえ、シャウトしつづけました。先生のお手本による立体裁断やドレーピングは布地の風合いを大切にされた優美な彫刻のようでうっとり。新作デザインを考えながら課題(当時は<sup>さいもく</sup>細目といった)に取り組み、寝る間も惜しんでミシンと向き合う日々でした。華やかなファッションは、情熱をもって地道で丁寧な仕事を積み重ねてこそ輝きが増すことを学生時代に学びました。

幼い頃に大和和紀さんが描くとてもチャーミングなモンシエリココの本と出会い、トキメキで胸を弾ませて以来、私は目に見えない強い力でファッションデザインの中心に引き寄せられてきました。この幸せを心から感謝して次の世代を担う学生さん達へファッションデザインを描き作る喜び、身に着け発表する高揚感を伝えていこうこれからも精進いたします。

おしまい

## 『東京百事流行案内』

文化学園大学教授(日本文学・日本文化論担当) 近藤 尚子

『東京百事流行案内』(以下、本書)は一冊、刊記には「明治二十六年九月二五日印刷／同年十月十二日発行」とあり、「定価二十五銭」の朱印が押してある。編集兼発行印刷者は「東京平民 大川新吉」である。縦22.5cm、横15cm、本文は序文を含め55丁。明治26年の刊行ということで、ある程度の部数が出版されたと思われ、他にもいくつかの所蔵が知られる。『日本近代思想大系』では、解題に「明治二十六年の刊行であるから、本大系の収録史料の年代幅を超えているのだが、流行現象を一書にまとめ、しかも豊富な図版を持っている点で、まことに貴重な史料なので、あえて収録することにした」として、第23巻[流行]の最初に置いている。そのことから本書の価値は明らかであろう。

まず案内子の序、夢遊居士の「流行談」が置かれ、3丁裏3行目の【新製人形思ひざし】から「流行案内」の本文となっている(以下、引用に際しては、現行の表記に改め、ふりがなは必要箇所のみ示す)。

巻頭には「衣」関係の項目が多く並んでいるようであるが、全体を統一するような配列の基準は見出せない。試みに21丁裏から28丁表の項目を挙げると、「懐中紙入・氷屋の腰掛・火鉢の流行形・籠行燈・大塚氏貯金法の流行・古流生花の流行・小供の胸掛・束髪カナリヤ・新橋芸妓社会呪法の流行・古帛の流行・ちり靴・盆栽」となっている。しかも、本書には目次がなく、本書の全体がどのような項目からなっているのを見渡すことも困難である。

どのような項目が掲載されているのかをさらに細かく見る。上に述べたように、配列は脈絡を欠いているので、便宜 1.服飾(和装) 2.服飾(洋装) 3.食 4.調度品と生活雑貨 5.その他 と分類して挙げる。

1. 服飾(和装)19項目 女髷の新形・駒下駄類・紺足袋・汗襦・冬着男物流行柄・冬着女物流行柄・帯止・羽織紐・書生の角帯・冬着相場・帯地相場・男女袴地の流行模様・全盛拍子春衣の模様・袴・銘仙の流行・婦人被布・婦人合羽・黒縹子の男帯・あづし
2. 服飾(洋装)8項目 散髪・髻・帽子・小供の胸掛・靴・洋服の流行形及冬着柄行・履足袋・シャツ
3. 食 3項目 ちり・麦飯・うづら豆
4. 調度品と生活雑貨 53項目 新製人形思ひざし・煙草道具・櫛笄簪類・靴・涼提燈及団扇・夏季用座布団・西洋形花籠・時計の流行形・時計鎖・指環・ステッキ・段通・懐中紙入・氷屋の腰掛・火鉢の流行形・籠行燈・盆栽・吃驚箱・蝙蝠傘・襟巻・手袋・肩掛・手拭・洋靴・呼鈴附郵便受函・牛乳受函・コップ・安全剃刀・たたみ布団・鉄瓶及茶托・ランプ類・髷入流行形・シャゴマのこもじ・自転車・当用筆筒・七宝織・実印及認印・陶製の標札・軸物・門口の呼鈴・手水鉢・臘梅・紙腔琴・防盜櫃・雑巾桶・補聴器・眼鏡・小供用毛糸帽子・蠟燭台・弁当箱・灰吹・便器・座布団
5. その他24項目 大塚氏貯金法の流行・古流生花の流行・束髪カナリヤ・新橋芸妓社会呪法の流行・古帛の流行・蒟蒻版・魚鳥切手・羽子板の押絵・駒下駄押絵の由来・清元の流行・写真入名刺の流行・歌川派の十元祖・年玉贈答品の景況・額招牌・偽転業見切売の流行・雪駄の流行水撒の為に止む・客前の菓子・居宅入口の流行形・古錦絵及古郵便切手・播種季節・煎茶式流行の萌し・二人綱曳車・引札の新仕段・景気餅の流行

項目の数え方や分類のしかたに多少の揺れはあるだろうが、項目数で107。江戸時代に流行した「～百珍」がみごとに百をそろえているのに比較すると、先

述のように目次もない本書では「百事」は「たくさん  
の」というほどの意味だとも考えられるが、一応タイト  
ルの百にほぼ合致している。

項目の内容としては、服飾では「和装」と分類した  
ものが、洋装より多い。項目名を見ただけでも、洋装  
の衣服に関しては「洋服の流行形及冬着柄行」と「シ  
ヤツ」しかないことがわかる。『日本近代思想大系』の  
解題では本書を「文明開化が終り、鹿鳴館時代も過ぎ  
た時代の東京における流行の総括」としている。食に  
関しては3項目しかなく、半数以上を占めるのが、「調  
度品と生活雑貨」に分類したものである。その中には  
江戸以来の「煙草道具」や「盆栽」などもあるが、「ス  
テツキ」「コツプ」「ランプ類」などの新たに生活に  
入ってきたと思われる道具類も多く、正しい使い方  
をしていないことについて批判的に述べるものが多い。

記述のしかたは細かく具体的である。まず「流行」  
と銘打っているだけあって、変化をきちんととらえて  
いる。たとえば「自転車」には「四五年以来すたりて居  
たる自転車又々大流行となり至極便利のものなれどメ  
リヤス股引の尻からげの輩は余り体裁よからねば何  
んとか注意したきものにこそ」とあり、後半には批判  
的記述も見える。「蝙蝠傘」には「専売品舶来骨流行  
の次第を云へば一昨々年頃より舶来して流行せしが  
安くも絹張にて三円搦みのものなれば敢て販路の広  
きと云ふ程にもあらず(中略)舶来骨追々安くまた日  
本模造次第に高み同時に細工も見事になり本年の  
仕入期には専売品八分の姿となりて遂に毛縞子張  
の下等は小売一円搦みに落込みたれば下婢小僧も  
専売品の蝙蝠傘を用ゆるにぞましてゴム綾及び甲斐絹  
張りの如きは専売品に非ざれば見向きも遣らぬ人気  
となり茲に従前の製品は一切店の置物と化し去るの  
景況なり」とある。この蝙蝠傘の記述にみられるよう  
に、価格について詳細に記述することも特徴である。  
「冬着相場」を引く。

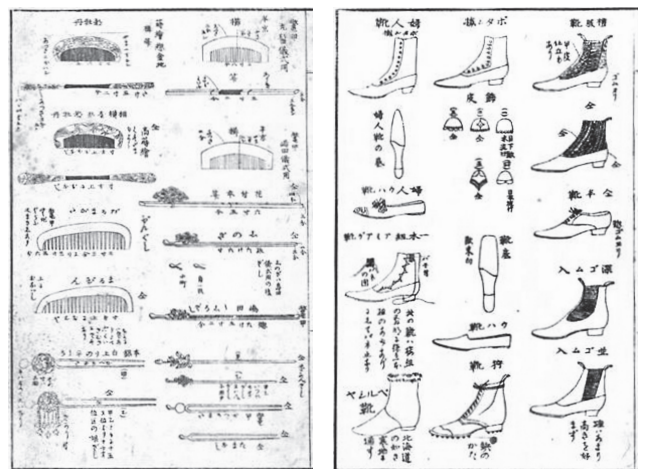
「京ざん」は並等三十八九銭より四十八九銭迄  
近郷製上等五十銭より七十銭迄「寄二子織」  
五十銭より一円位「細二子織」一円より一円  
三十銭位「瓦斯糸織」一円二三十銭より二円位

迄「諸糸瓦斯織」一円八十銭より二円四五十銭  
とす商家の粋まるもの多く之を用ゆまた「糸入  
瓦斯織」は品位中等に位し子供や婦人に適當の  
品にて中々体裁よきものなり値は一円二三十銭  
より四五十銭上等一円八九十銭なり(後略)

「洋服の流行形及冬着柄行」でも、「モーニング」に  
記述はないが、「ズボン」代価普通十四五円上等二十  
円余「セピロ」普通十二三元上等十七八円「フロツク、  
コート」普通十五六円上等二十四五円「オヴワー、  
コート」代価十二三元より二十円余「<sup>とんび</sup>鷺形外套」値十  
円より十五六円上等物は(中略)値は二十円余と詳  
細な値段の記載がある。このように本書は、明治中期  
のさまざまなものの値段を知ることのできる資料とし  
て貴重である。

最後に挿絵について触れておく。解題に「豊富な  
図版を持っている点でまことに貴重」とあったように、  
本書には豊富な挿絵が掲載されている。「櫛笄簪類」  
と「靴」の挿絵を掲げておく。本文と相まって読者に  
事物の具体的なイメージを与えることに大きな効果  
を上げている。時には本文の記述を補うこともあり、  
「靴」には「其他靴の話は図に代へて略しぬ」とある。

さて、最初に書いたように本書の刊記には「定価  
二十五銭」の朱印が押してある。この値段を本書で  
求めるならば、涼提燈の「並品二十五銭より上等五円  
まであり」の並品にあたる。いかがなものであろうか。



櫛笄簪類(7丁裏)

靴(27丁裏)



## Iris

文化学園大学准教授(色彩学ほか担当) 鳥海 薫

あの透き通るような氷雪に囲まれた瑠璃色の湖面を、私は今も思い出す。北国、秋田に生まれ育った私は、まだ雪が残る寒い日に家族で田沢湖へ旅行をしたことがあった。辰子姫伝説に彩られる田沢湖は、秋田県仙北市にある日本で最も深い湖で、日本百景にも選ばれている景勝地である。旅行中に朝早く目が覚めた私は、窓の外を眺め「あっ」と小さく白く声を出した。雪は冬の華となり、真っ白に降りしきる冬景色は一面の銀世界。しだいに静寂に包まれ、瑠璃色の湖面がさらに深く澄んで鏡のようになった時、銀色の雲のカーテンから微かに淡い琥珀色の太陽が覗いたのである。銀河からの光は、雪の表面で一瞬真珠のように淡い虹色の光沢を放ち、その生命を宿したような美しさに私は心を奪われた。

虹の研究は、古代ギリシアの哲学者アリストテレスが理論づけし、17世紀以降多くの科学者たちが虹の現象に自然の法則を見いだそうと精力的に研究を続けた。その好奇心こそが、新しい科学を創造する原動力となり得たのではないだろうかと思うほどである。また虹は超自然的な存在と関係があると考えられ、全世界で虹の神話や伝説が語り伝えられている。ギリシア伝説の女神イリスは、天上界と地上とに虹の架け橋をかけ、地上に争いが起こると神々の使者であるイリスの仲裁によって和解すると言い伝えられる。ゆえに、虹からは科学と文化の側面を興味深く学ぶことができる。

その両者を兼ね備えた虹の専門書として、西條敏美著『虹ーその文化と科学』がある。虹は、雨上がりに大気中にある細かな水滴に太陽光が当たると、その一粒一粒がプリズムと同じ役割で光の各波長を分光し、割れた光が内部ではね返され、人の目に届いて虹状の帯に見える。本書では虹の研究をした科学者たちを紹介してお

り、特にニュートンが『光学』（1704年）で光のスペクトルの研究や虹の理論を確立し、虹の7色は音階と関係づけ宇宙の調和を音楽に結びつけて考えたことが興味深い。また文化的側面では、西洋の「創世記」において神と地の間で二度と洪水を起こさせない約束の印が虹であったことや、虹の漢字の語源が「蛇」の精に由来し、かつて世界の民族の中では、虹は得体のしれぬ恐ろしい存在として考えられていたとする人類学的観点から様々な伝説や神話を知ることができる。私が湖で出会った虹は、辰子姫伝説の龍になってしまった娘の姿だったのではと、今でも不思議な思いにつつまれる。

杉山久仁彦著『虹物語』で高橋真澄氏が撮影した美しい虹は、現れる時間や場所、大気の状態によって様々な表情を見せる。自然界の限らない意味を内に秘めながらも、精神的な観念にまで達しようとする世界観に引き込まれる。

環境デザイン研究所編『花の七十二候』では、四季の移り変わりを通して花の便りを伝えてくれる。その花信には、今の時代に薄れゆく暦の役割や意味、花言葉や名句、言い伝えを知ることができ、6月頃の開花が見ごろとなる花を探すとアヤメがある。アヤメ（学名 *Iris sanguinea*）は、「天の目」という意味でギリシア神話のイリスに由来し、その多様な色合いから虹にちなんで名前がつけられたといわれている。

人は虹の美しさに見とれつつ、夢や幻のごとくはかない虹を愛おしく思う。虹の立つ場所へ、私も再び小旅行をしてみたい。

\*西條敏美著『虹ーその文化と科学』恒星社厚生閣 1999 <451.75/S>

\*杉山久仁彦著『虹物語』青葙社 2007 <451.75/T>

\*環境デザイン研究所編『花の七十二候ーニッポンの季節と暮らしを彩る花の文化史』誠文堂新光社 2013 <627/H>



## 図書館からのお知らせ

### 小平図書館の資料の一部を移動しました

現代文化学部の新都心キャンパスへの移転に伴い、小平図書館は3月末をもって閉鎖しました。小平図書館の資料のうち、心理学や観光学などの一部の図書と雑誌は新都心図書館に移動しました。小平図書館は4月から「小平書庫」と役割を変え、保管する資料は週2回のデリバリーで利用できます。

### サービスを拡大しました

#### 【利用者サービス(MyCARIN)】

4月からMyCARINでの貸出更新(期間延長)回数の上限を2回→3回に変更しました。

また、MyCARINでWeb上から小平書庫の図書の予約(取寄せ)ができるようになりました。

#### 【卒業生の入館受付時間・利用可能日変更】

卒業生の入館受付時間を開館時～閉館30分前に変更しました。また、試験期前の利用制限を廃止しました。

※日曜の特別開館日など年数日、卒業生が利用できない日もあります。

### 新規追加のオンラインデータベース

利用できるオンラインデータベースが増えました。図書館ホームページ上部メニュー「オンラインジャーナル・データベース」のページから利用できます。

#### 【WGSN】

各国のファッションウィーク、ストリート、セレブリティ、消費動向予測、新しいテクノロジーなど、クリエイションに不可欠な情報をタイムリーに提供しています。月間350以上のレポートが追加され、英語、日本語、中

国語、韓国語、スペイン語の5カ国語で閲覧できます。サイト内には1000万点以上の高解像度の画像があります。

#### 【ドラゴンソース】

中国の書店で販売される週刊誌・月刊誌等のe-Magazineのオンライン版総合データベースです。収録誌は発行された誌面形態のまま、全文・画像をご覧いただけます。

「健康休閒(健康とレジャー)」分野の、女性时尚(女性と流行)、家庭親子(家庭親子)という2つのジャンルで、100誌以上の雑誌が閲覧できます。

### 《ご存知ですか?》

#### 「図書館向けデジタル化資料送信サービス」

国立国会図書館がデジタル化した資料のうち、絶版等の理由で入手が困難な資料について、デジタル画像の閲覧と複写ができるサービスです。

お探しの図書や雑誌などが送信サービスの対象になっているかどうかは国立国会図書館Webサイト内の「国立国会図書館デジタルコレクション」(<http://dl.ndl.go.jp/>)で、確認できます。

〈利用できる方〉 本学の教職員、学生

〈利用場所〉 図書館閲覧室の専用端末1台

〈閲覧〉 カウンターでお申し込みください。図書館職員によるログイン後、利用できます。

〈複写〉 公開範囲が「図書館送信資料」である資料について著作権の範囲内で複写ができます。(職員による代行印刷)

〈複写料金〉 モノクロ1枚10円、カラー1枚40円(A3のみ60円)

不明な点は下記にお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください

TEL : 03-3299-2395 [URL] <http://lib.bunka.ac.jp>

twitter と facebook にて図書館の情報を発信しています

[twitter] <https://twitter.com/bunkalib>

[facebook] <https://www.facebook.com/lib.bunka>